魔法の Wallet　プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：辻村　俊　　所属：東大阪市立花園中学校　記録日：2020 年２月９日

キーワード：　読み書き支援、教科学習、学び方、学習支援

【対象児の情報】

〇学年　中学１年生

〇障害名　学習障害

〇障害と困難の内容

知的な遅れはないが、知覚推理と処理速度の低さ、視覚認知や空間認知の弱さ、視野の狭さにより、全体から情報をつかむことが苦手である。

読みの困難

・自分で読んでいると、どこを読んでいるか分からなくなる。
・読むことに集中していると、内容が頭に入ってこない。（読むより、聞く方が理解しやすい）
・漢字の読みは、小学校で学ぶものがなんとか読める状態。
・音読をすると、読めない漢字でつまったり、不自然な区切り方をしたり、語尾を変えて読んでしまうことがある。

書きの困難

・手書きのスピードは速いが、字形が整わず読みづらい。
・意識すれば丁寧な字を書くことはできるが、普段の２倍程度の時間がかかる。
・想起して書ける漢字は小学３年生程度まで。「書こうとしても思い出せない。」
・そのため、手書きの文章はほとんど全てひらがなである。
・字形を捉えることが苦手であり、漢字の線が1本足りなかったり、アルファベットは D を反転して書いたりする。
・板書をノートに写す際、量が多いとどこを写しているのか分からなくなってしまう。

算数の困難

・足し算引き算は指を使って計算している。
・九九は概ね覚えている。
・毎日繰り返し取り組まないと、基本的な計算の方法も忘れてしまう。

【活動目的】

〇当初のねらい

1 「中学校でもこれならできる」という学習方法を見つけ、自信をつける。

2 学習の成果を定期テストで充分に発揮できるよう、自分に合ったテストの受け方を見つける。

・実施期間

2019 年４月から１年間

・実施者

①　辻村　俊　（②小島　美和）（③梅井　遥）（④山本　諭志）

・対象生徒との関係

・①中学校支援学級担任（国語、英語、社会の指導を担当）　②小学６年生時の支援学級担任
③小学２年、５年時の支援学級担任　④中学校支援学級で数学の指導を担当

【活動内容と対象児の変化】

〇対象生徒の事前の状況

中学校での学習において考えられた困り

・「みんなと同じ内容をしたい」「ちゃんと理解したい」という気持ちが強い。
・しかし、通常の学級の授業は進度も早く、情報が多いので負担が大きい。
・中学校の提出物（ワーク）は、量が多く難しいので、こなせるかどうか不安。
・単元まとめレポート等、「書く課題」が多く、手書きでは負担が大きい上、読みづらくなってしまう。
・教科書や問題集の設問を自分で読んでも、内容を理解しづらい。
・数学は、小学校では算数を自分のペースで学習してきたので、中学校の内容を学習できるか不安が強い。
・何事にも不安が強く、自信がない。

定期テストで予想された困り

・読めない漢字が多く、テスト問題の内容が読み取れない。
・自分で読んでも、読むことに必死になると内容が頭に入ってこない。
・丁寧な字を書くには時間がかかってしまう。
・漢字指定の問題は、答えが分かっていても漢字で書けない。

〇活動の具体的内容

1 「中学校でもこれならできる」という学習方法を見つけ、自信をつけるために

〇採択者と学習方法について頻繁に相談し、各教科の学習方法を本人がより学びやすいように変更しながら取り組んでいる。

〇可能な限り通常の学級と同じ内容を学習するが、通常の学級の各教科担当者からアドバイスをもらい、重要事項にしぼって学習している。

〇各教科の提出物の中心である「ワーク」についても、通常の学級で使用する物は難易度、量ともに対象生徒には負担が大きくこなしきれないため、各教科担当者に承諾を得た上で、新興出版社の「ホントにわかるシリーズ」を使用することにした。学習内容が焦点化され、解説動画もセットになっていることで、対象生徒が自分の力で取り組みやすいと考えた。なお、ワークの提出点もこのワークを提出することで他の生徒と同じように評価してもらっている。

※ 国語は教科書の文章の内容理解確認と、定期テスト対策のため、通常の学級で使用されている教科書準拠のワークを使って学習した。

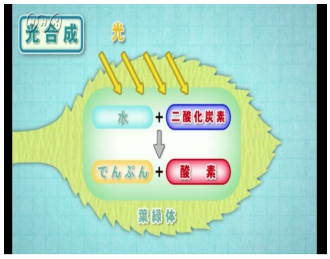
〇 支援学級での授業は、国語、英語、社会は採択者が担当。数学は、協同研究者の山本先生が担当。理科は、可能な限り子ども支援コーディネーター（理科専門）の協力を得て行った。

実際の取り組み内容

◆ 「NHK for School」の関連動画を視聴し、学習内容についてイメージを膨らませる。

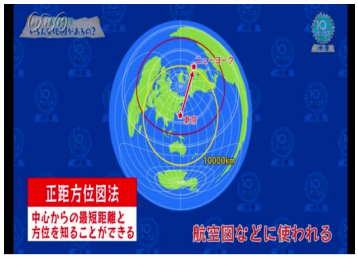
視覚情報があって分かりやすい！

国語「竹取物語」



理科「植物のからだ」

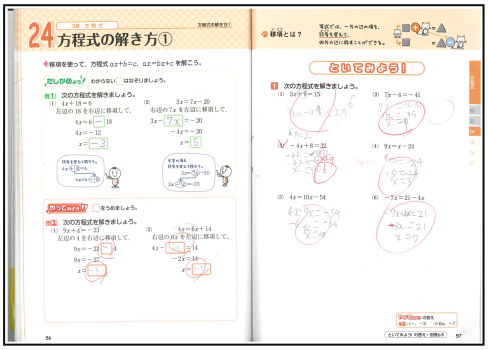
歴史「大化の改新」



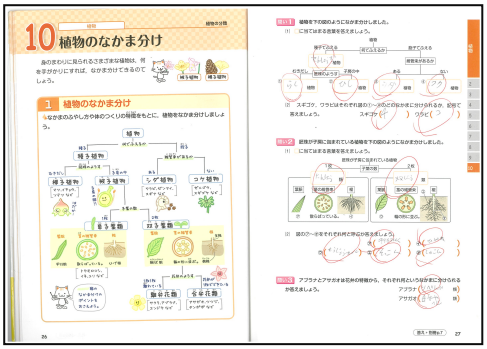
地理「いろいろな地図」

◆「ホントに分かるシリーズ」のワークに取り組み、内容が理解できているか確認。

解説動画を見ながら自分で進められる！



数学「方程式の解き方」



理科「植物のなかま分け」

◆体験を通して学ぶ。

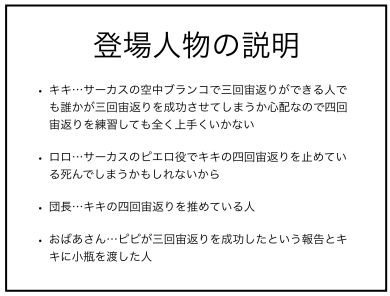
理科「地震の波を水で再現」

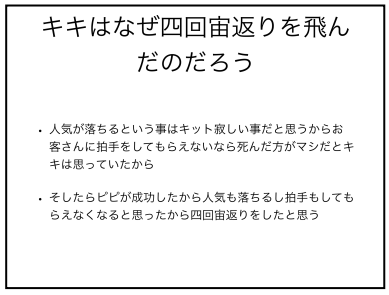
英語「支援学級の教室で、ALT の先生と英語ですごろく」

◆ 学んだことを「keynote」や「ロイロノート」に自分でまとめ、内容の整理、定着を図る。

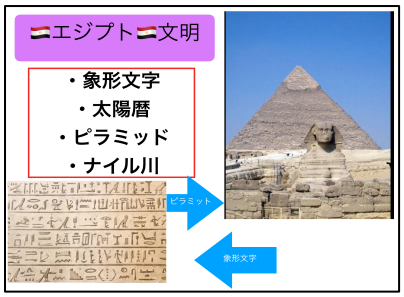
単元レポートの代わりに提出し、評価してもらう。

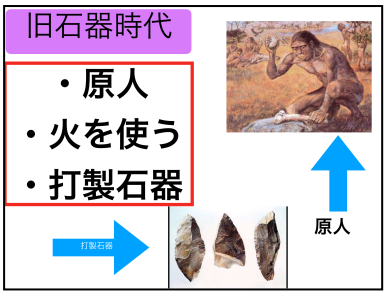
手書きでレポート用紙にまとめるのは大変だけど、iPad で入力すればスムーズにできる！



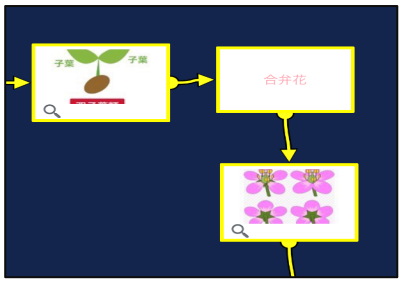


国語「空中ブランコ乗りのキキ」単元レポート（keynote）





社会　まとめ学習（keynote）



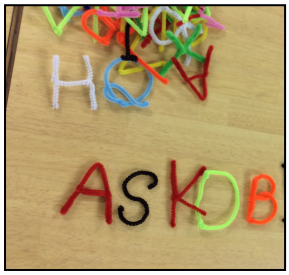
理科「植物のなかま分け」（ロイロノート）

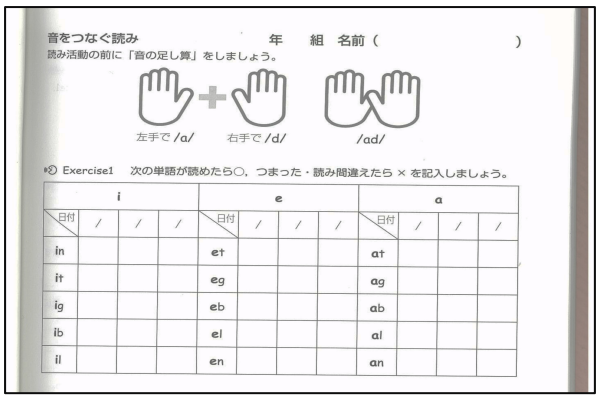
◆アルファベットは、文字の形をつかむために、モール紐を使って学習。

◆文字と音の一致、フォニックスの学習は、村上加代子先生の教材を使って学習。

「２文字語」を読む練習→「３文字語」を読む練習と、少しずつステップアップ。

文字を見て、少しずつ発音できるようになってきた！





◆英単語はカルタで楽しく学習。

イラストがあると覚えやすい！　英語の動詞をたくさん覚えた。

◆英文法は、会話練習で使って覚える。　並び替え問題で定期テスト対策も。

イラスト付き単語カード

カルタをして楽しく学習。

“Do you like ○○？”を使って、
相手の好きな食べ物を当てる活動。

2　自分に合ったテストの受け方を見つけるために

◆定期テストごとに採択者と相談し、テストの受け方を決めた。

現在対象生徒が希望している定期テストでの配慮事項

① テスト問題の漢字ルビ打ち（全てのテストで継続して希望）
　→自分で問題文を読むために必要。

② 文章や設問の教員による読み上げ（９月の実力テストから実施）
　→読み上げてもらった方が内容を理解しやすく、スムーズに回答できる。

③ 試験時間を最大 1.3 倍に延長（12 月の２学期末テストから実施）

→文章中から答えの部分を回答欄に書き写す時や、分かりにくい問題を再度読み上げてもらっていると、時間が足りなくなってしまった。焦って答えることでケアレスミスをしたり、「時間があれば正解できたのに」と悔しい思いをした。

※ 手書きによる回答では、字形が整わず読みづらくなってしまったり、漢字指定の問題に答えられなくなってしまうことを考慮して、第１回目の定期テストではタブレット PC でキーボード入力をして回答した。しかし、「漢字指定の問題に正解できた」というメリットはあったものの、ローマ字入力や、Excel の解答シートに入力することにまだ慣れていなかったため、スムーズに回答することができなかった。その後の授業でタブレット PC でのキーボード入力練習を何度か行ったが、次回のテストからはよりスムーズな手書きでの回答を希望した。

〇対象生徒の事後の変化

支援学級での学習を始めた当初は、教科書をベースに教師が説明をすることが多く、対象生徒は「分からん」、「難しい」とよく口にしていた。また、教師が板書した内容をノートに写していて、「気分が悪くなる」ということもあった。

しかし、対象生徒と相談する中で、NHK for School の動画を見たり、小学校でやってきたように iPad でまとめ学習をしてみようと、学習方法を変えていくと、マイナス発言は減り、意欲的に学習に取り組むようになった。一度 iPad を使った学習を取り入れると、「これ iPad でやってもいい？」等と自分から聞いてくることが増え、学習に対する主体性も向上してきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

〇主観的気づき

1 学習方法について

(1) 各教科の学習方法が、自分に合ったものになってきている。

(2) iPad で入力することで、漢字を使い、たくさん書くことができる。
それがより良いセルフイメージにつながっているのではないか。

(3) 身につけた学習方法が、通常の学級での授業でも生かされている。

2 定期テストの受け方について

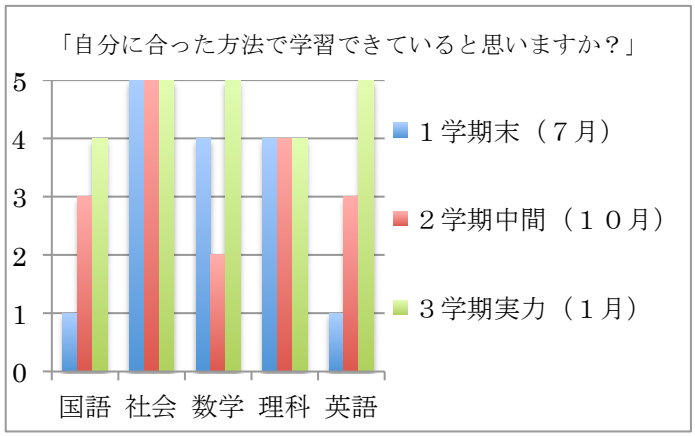
(1) 問題文を読み上げてもらうことで内容を理解しやすくなり、スムーズに回答できている。

(2) 試験時間の延長を行うことで、安心してテストに取り組めている。

〇エビデンス

1 学習方法について

(1) 定期テスト後に行った「振り返りアンケート」をもとに対象生徒の思いを聞いた。



（1:全くそう思わない　2:そう思わない　3:どちらとも言えない。 4:そう思う　5:とてもそう思う）

《対象生徒の声と採択者の気づき》

国語「ワークの問題に取り組むとき、先生に教科書を読んでもらえば、答えを抜き出しやすい。」
「デイジーを使えば１人でもできそう。」「ワークの問題文も、複雑でなければ自分で読んで理解できる。」
→「読解」の負担は、「読んでもらう」ことで大きく改善した様子。３学期では、「１人でもできる」を目標にデイジー教科書の読み上げを聞いて、ワークの読解問題に取り組む練習をしている。

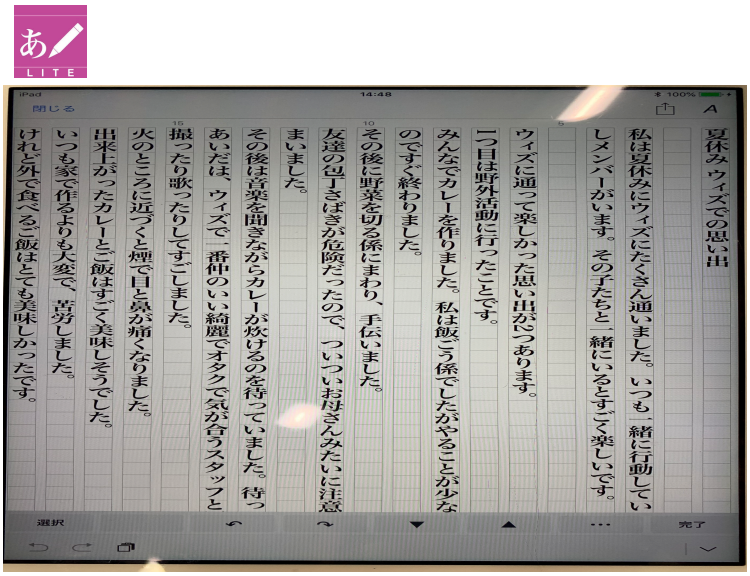
社会「keynote でまとめると頭に入りやすい。」
→小学校から築き上げてきた方法で自信がある。自分でまとめたスライドがiPadに蓄積されていくことも嬉しい様子。「keynote」の操作はスムーズで、楽しく学習できている。

数学「数学は難しいけど、勉強方法は今の方法で良いと思う。」
「図形は苦手だけど、実際に物（立体模型等）を使って教えてもらうと分かりやすい。」
→数学は復習を丁寧にしながら、本人のペースで行っている。苦手意識は強いが、授業の中で「できた」「分かった」という経験は積めている。

理科「（支援学級での）理科の先生の授業は、実験を見せてくれたり、体験させてもらえて分かりやすい。」
「（通常の学級の）実験に参加したら、次の時間は支援学級で復習したい。」
→通常の学級の実験授業にも参加するようになった。しかし、実験であっても、先生が話すスピードが速かったり、先生の話の中から大事な部分を理解するということは難しいようだった。事前の予習や、事後の復習を行うことで、安心して参加できるようになるのではないかと考えている。

英語「単語をけっこう覚えてきた」「授業で習っている内容も理解できている」
→当初苦手意識の強かった英語だが、イラストつきの単語カードを使って「動詞」の学習をすると、どんどん覚えていった。初めはイラストから単語の発音を思い出していたが、今ではイラストなしで、文字を見ただけでも、発音ができて意味も分かる単語が増えてきている。このことから自信がついてきたようで、英語の授業で「分からん」を連発することはほとんどなくなった。以前はあまり取り組みたがらなかったワークにも、黙々と取り組むようになっている。

⑵ 夏休みの作文の課題は、縦書き対応で、作文用紙に入力ができる「i ライターズ Lite」というアプリを使って行った。一度入力し始めると、スラスラとまとまった文章を書くことができており、対象生徒の「書いて表現する力」に気づくことができた。また、手書きであれば、読みにくい字になってしまったり、ひらがなばかりになってしまうが、iPad を使えば漢字を使ってたくさん書くことができた。「iPad があれば、自分もできる」という自信に繋がったのではないかと考えている。



（夏休みの宿題「生活体験意見文」：全４ページ）

⑶　１月半ばから、社会の授業を通常の学級で受けるようになった。

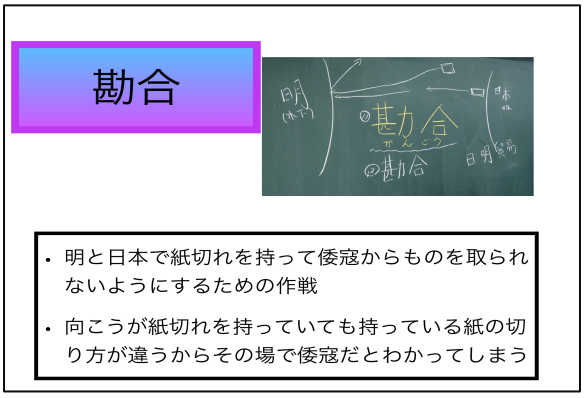
「先生、社会の授業を教室で受けてみる！」と、１月のある日対象生徒が伝えてきた。それまでは、通常の学級での授業はなかなか受けたがらなかったので、非常に大きな変化に感じた。さらに驚いたのは、自主的にノートテイクを工夫して行っていたことだ。授業中に先生が重要だと言った用語を、iPad の「メモ」アプリにメモし、板書を写真で撮る。授業の最後の数分間、自習の時間があるので、その時間に「keynote」を使って、メモした用語についてまとめる、という方法で行っていた。小学校から支援学級で行ってきた「まとめ学習」の方法が、中学校の通常の学級の授業で生かされていたのだ。既に２週間程度、社会の授業は通常の学級で受けているが、今のところ困ったことはない様子。「社会の先生は面白いし、色んな例え話をして説明してくれるから分かりやすい。」と採択者に話してくれた。

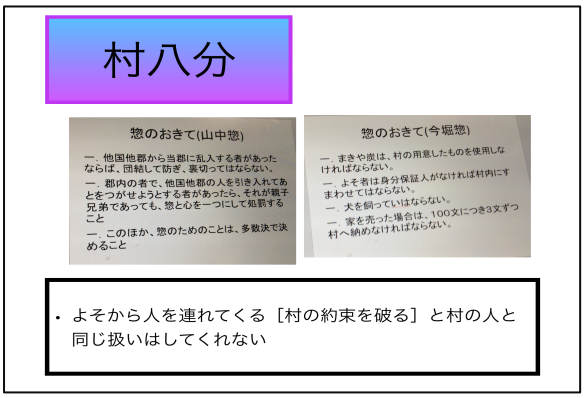
対象生徒がこのように大きな一歩を踏み出すことができたのは、冬休みの間に小学校時代支援学級でお世話になった先生（協同研究者）から学習方法についてのアドバイスや励ましの言葉をもらったことがきっかけになっているようだ。

対象生徒が今の自分について知り、今後の学習への示唆を得ることを目的に、協同研究者が LD-SKAIP※を行った。その結果をもとに、「読み」の困難さを支えるためには、事前にデイジー教科書を聞く等して予習を行っておくことや、小学校から取り組んできた、iPad の「メモ」や「keynote」を使った学習方法を中学校で発展させていけば、高校生になっても授業が受けやすくなるのでは、といったアドバイスを受けた。信頼している小学校の先生と話し、「今後どうしていけば良いのか」についてゆっくり時間をとって考えたことで、見通しを持ち、前向きな気持ちになれたのではないかと考えられる。

これに加え、冬休み明けの社会の実力テストで良い点数を取ることができ、自信を持つことができたことも、通常の学級の授業を受けてみようと決心できた要因でると考えている。

※　LD-SKAIP は小学６年生までを対象とした検査である。対象生徒は中学生であるので、その結果は参考値となる。今回 LD-SKAIP を行ったのは、あくまでも対象生徒が自分と向き合い、今後の方針について考える為の示唆を得ることを目的としている。





（板書や授業プリントの写真を撮って貼付け、自分で用語の説明を書いた）

（社会の実力テストで良い点が取れたことを、小学校の先生に嬉しそうに報告していた）

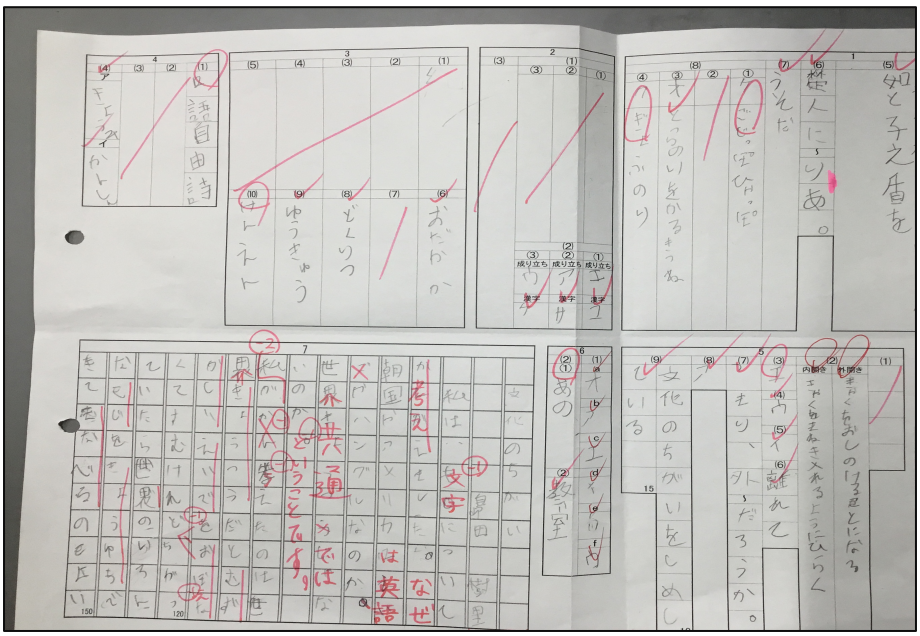
2 定期テストの受け方について

(1)問題文を読み上げてもらうことで・・・

- 特に国語の読解問題では、正解にたどり着けることが増えた。
- 複雑な問題が出たときに、「ここをもう１度読んで下さい」と求めることがあり、設問の意図をしっかり理解してから回答するようになった。

(2)試験時間の延長をしてもらえることで・・・

- 時間延長なしで取り組んだテストでは、時間が足りなくなり、焦って回答することでケアレスミスが目立った。また、作文等得意な問題にも十分な時間をさけなかった。
- 時間延長を行ったテストでは、一通り全ての問題に取り組むことができ、落ち着いて考えたり、ケアレスミスがないか確認する余裕ができた。



（全ての問題に一通り取り組めた。国語の作文問題も余裕を持って取り組み、部分点をもらうことができた。）

【今後の課題】

◆「自立した学習」が行えるように・・・

「テストでもっと良い点を取るためには、提出物のワークを終わらせるだけではなく、テスト勉強をして言葉を覚えたりしなければいけない。」という気持ちが、対象生徒に芽生えてきた。
今後学習に有効な iPad アプリ等の活用も含め、「１人でもできる」家庭学習、テスト前学習の方法を、一緒に考えていきたい。

◆高校進学を見据えて、自分でできることを増やしていくために・・・

まずは社会等得意な教科、入れそうな単元から通常の学級での授業に少しずつ参加し、試行錯誤しながら、ノートテイクの方法や読み上げ機能の活用等、「こうすればできる」という方法を見つけていきたい。